

## (第5期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の達成状況と評価について

目標項目	進捗状況						達成状況			
	現状値	参考値	計画期間の実績				目標値	達成率	評価※	
	2017 H29	2018 H30	2019 H31/RI	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2022 R4			
<b>重点施策1：環境こだわり農業の一層の拡大</b>										
環境こだわり米の作付面積割合	45%	44%	44%	44%	44%	45%	50%	90%	A	
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米の需要減少等により主食用米の作付けが減少する中（H29：30,000 ha→R4：27,700 ha）、環境保全型農業直接支払交付金制度の活用等を行った結果、環境こだわり米の作付面積の割合は横ばいで推移し、45%前後を維持したものの目標達成には至らなかった。</li> <li>課題として、「①慣行栽培に比べ、収量・品質が不安定な場合があり、また、栽培に係るコストや手間が増加すること」、「②手間をかけて生産されているにもかかわらず、一般農産物と区分されず取り扱われている事例が多いこと」などが挙げられる。</li> <li>今後は高温条件下でも収量、品質が安定し、かつオーガニック栽培や化学合成農薬・化学肥料を大幅に削減する栽培方法でのみ栽培される県育成新品種「きらみずき」の導入や、緑肥や堆肥を活用する等により、生産性と持続性を両立しながら取組拡大を図る。また、流通・販売面での取組強化、各種メディアやSNS等を活用したPR等により消費者理解を促進し、ブランド力向上を図る。</li> </ul>										
<b>重点施策2：環境こだわり農産物の有利販売・流通拡大に向けた新たな取組</b>										
環境こだわり米作付面積	みずかがみ	2,575 ha	2,748 ha	3,208 ha	3,299 ha	3,254 ha	3,113 ha	3,000 ha以上	104%	A
	コシヒカリ	5,148 ha	4,917 ha	4,718 ha	4,552 ha	4,502 ha	4,390 ha	6,000 ha以上	73%	B
	合計	7,723 ha	7,665 ha	7,926 ha	7,851 ha	7,756 ha	7,503 ha	9,000 ha以上	83%	A
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みずかがみ」については、生産面の支援として栽培方法の指針となるマニュアルを作成し、生産者に配布する等の取組を行い、作付面積の拡大を図った。販売面では、各種PRや販売促進活動への支援を行ったことで、「みずかがみ」の流通を促進した。こうした取組の結果、作付面積の目標を達成することができた。</li> <li>「コシヒカリ」については、環境こだわり米として生産されたものが、環境こだわり米として販売されていないという課題への対応策として、統一デザイン米袋を県で作成し、仕分けの徹底を図るとともに、統一デザイン米袋の活用やそれに伴う販売促進活動を支援し、京阪神等への流通を促進するなど、作付面積の拡大に向けて取り組んだ。</li> <li>環境こだわり米の作付面積については、「①主食用米の生産面積が減少したこと」、「②米政策改革やコロナ禍の影響により、業務用の多収米や飼料用米への作付け転換されたこと」などにより減少し、「コシヒカリ」および環境こだわり米全体での目標達成には至らなかった。</li> <li>今後も引き続き環境こだわり米の販売促進活動を支援するとともに、「みずかがみ」とは作期が異なり、作期分散が図れる県育成新品種「きらみずき」の推進により、環境こだわり米作付面積の拡大を目指す。</li> </ul>										
野菜で環境こだわり農産物の生産拡大を図る重点推進品目数	-	-	1品目	3品目	3品目	3品目	3品目以上	100%	A	
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滋賀県園芸農産振興協議会において、R1年度に「にんじん」、R2年度に「かぼちゃ」および「こまつな」を重点推進品目に定め、目標を達成した。</li> <li>重点推進品目に定めた3品目については、主産地や関係機関・団体でPR手法を検討の上、販売促進用資材を作成し、県内量販店や直売所等で活用いただいた。また、主産地の地元小学生による収穫体験学習や県内量販店におけるPRイベントを広報誌にて紹介したほか、新聞記事にも掲載されるなど、幅広く情報を発信できた。</li> <li>今後も引き続き産地のPR活動を支援し、環境こだわり野菜の魅力を消費者に伝えることで、販売促進・生産拡大につなげる。</li> </ul>										
<b>重点施策3：環境こだわり農業の象徴的な取組としてオーガニック農業等を推進</b>										
オーガニック農業（水稻）取組面積 ※有機JAS相当の水稻作付面積	変更後 (変更前)	146 ha (247 ha)	131 ha (254 ha)	133 ha (291 ha)	237 ha	269 ha	283 ha	300 ha (420 ha)	94%	A
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「オーガニック栽培の手引き」の作成や、乗用型水田除草機を活用した実証展示ほの運営や各種研修会の開催、除草機導入補助等を通じて、オーガニック米の安定栽培技術の普及を図り、取組面積を拡大した。また、有機JAS認証取得補助等により、有機JAS認証取得面積が拡大した。</li> <li>販売面において、オーガニック関連の展示会への出展により認知度向上に取り組むとともに、地域の統一ブランド「オーガニック近江米」として、統一デザインの米袋を用いて量販店での販売につなげた。</li> </ul>										
オーガニック農業（茶）取組面積 ※有機JAS相当の茶面積	7 ha	11 ha	12 ha	11 ha	12 ha	9 ha	12 ha	75%	B	
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーフ茶の需要拡大と「近江の茶」ブランドの向上を図るため、有機栽培の取組を支援したが、輸出需要の減少により、オーガニック農業取組面積は減少した。</li> <li>実証ほの設置や品質評価等を実施することにより、うま味のあるオーガニック茶生産に向けた技術改善の支援や、効率的な製茶体制の実現に向けた産地での情報交換等により、有機JAS認証取得の機運が高まっている。今後も引き続き各種支援を継続することで、オーガニック茶の生産・販売を推進する。</li> </ul>										
魚のゆりかご水田取組面積	131 ha	148 ha	143 ha	143 ha	182 ha	118 ha	250 ha	47%	C	
<p>(達成状況に対する評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度に182haに拡大したが、転作ブロックローテーションの影響がありR4年度に118haとなった。R5年度には133haに回復している。</li> <li>新規に取組まれる地域（草津市北山田町）や新たに取組まれる農業者（野洲市比留田）もあり、技術的な支援も行っている。</li> <li>流通面では、R4年に京滋のイオン9店舗で販売され、また百貨店のカタログ販売に採用されるなど新しい販路開拓も進んでいる。</li> <li>近鉄百貨店草津店（近江路）では、毎年SDGsや世界農業遺産認定記念をテーマに「魚のゆりかご水田米」の特設コーナーも設置されている。</li> </ul>										
<b>継続把握指標</b>										
環境こだわり農産物の認知度	-	45.7%	-	-	-	-	-	-	-	
環境こだわり米「コシヒカリ」の集荷量に対する出荷割合	37.8%	26.4%	44.0%	49.4%	57.3%	63.1%	-	-	-	
有機JASほ場面積	186 ha	170 ha	194 ha	197 ha	217 ha	228 ha	-	-	-	

※評価の基準…A：80%以上 B：60～80%未満 C：40～60%未満 D：20～40%未満 E：20%未満 -：該当なし